

Ⅲ. 建築学科の人材養成の目的と3ポリシー

【学部の人材養成の目的】

工学部は、人に優しいハードウェア・ソフトウェア技術、省エネルギー・省資源技術を軸としたものづくりのための革新的技術、あるいはグローバル環境に調和する空間・装置・コミュニティ創出技術及び循環システム技術に関して優れた専門性を有し、独自の発想で課題を解決できる人材を養成することを目的とする。

【学科の人材養成の目的】

建築学科では、社会生活を送るうえで必要となる知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力の習得のもとに、建築に関する総合的な知識・技術を基盤として、積雪寒冷地の諸条件を考慮した建築計画手法や建築技術を習得し、地域社会に貢献できる次のような建築設計者・建築技術者を養成する。

- ①風土、歴史、文化などを踏まえた建築や都市空間をデザインする能力を有する建築設計者
- ②健康で快適な生活環境や環境負荷が小さく省エネルギー化を実現した建築空間を創出する建築設計者・技術者
- ③これまでの自然災害による被害を踏まえ、建築空間の長寿命化を考慮した構造安全性及び耐久性を創出する建築設計者・技術者
- ④建築分野の総合的な専門知識と設計技術を基盤に、敷地やその周辺環境、あるいは、気象条件に適した施工技術を選定し、建築物の品質管理・生産管理を行う建築技術者

建築学科ディプロマ・ポリシー

建築学科は、「科学的市民」の育成という教育理念のもとに以下の資質や能力を身につけ、所定の授業科目を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に、学士（工学）の学位を授与します。

1. コミュニケーション力

論理的な思考力、記述力、発表と議論の能力を有し、他者と適切なコミュニケーションを取ることができる。

2. 課題を発見し、問題を解決する力

建築分野における課題発見、問題解決に必要な基礎知識を習得し、多種多様な情報を収集して分析できる。

3. 自らを律し、学び続ける力

目標達成のための計画を立案・遂行できるとともに、自主的・継続的に学習し続けることができる。

4. 他者と協力して目的を達成する力

幅広い教養と豊かな人間性を有し、他分野を理解しながら連携・協力し、地域社会の発展に貢献できる。

5. 専門的知識・技能を習得し、実践する力

建築学の専門的な知識や技術を習得するとともに、それらを活用することにより、地域社会における様々な課題に対して解決することができる。

6. 総合力

これまでに獲得した基盤能力と建築学に関する専門知識・技術、及びそれらを応用する能力を活用し、今後も地域社会において建築設計者・技術者として活躍できる。

建築学科カリキュラム・ポリシー

建築学科では、基本教育科目、工学基礎教育科目、専門教育科目の有機的な結合によって、建築設計者・技術者としての専門能力と専攻分野を通じて学士力を培うことを目指したカリキュラムを設計します。このことを明確にするために、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようカリキュラム・フローを作成します。また、各授業科目の達成目標とディプロマ・ポリシー各項目の関連性を集約したカリキュラム・マップを作成します。さらに、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、及び改善を行います。学修成果やカリキュラムの点検評価の方針をアセスメント・ポリシーとしてまとめています。

1. 豊かな人間性及び幅広い教養を身につけるため、基盤能力、学修スキル、コミュニケーション力を培う基本教育科目、工学基礎教育科目を配置します。
2. 専攻分野に必要な基本スキルを育成するための基本教育科目、工学基礎教育科目を配置し、領域ごとに最適化された専門知識・技能修得のための専門教育科目を配置します。
3. 基盤能力と専門的知識・技能に関連する科目を体系的、効率的に修得できるよう配置します。
4. 自ら学ぶ力の醸成や能動的学修をサポートするため、充実した学内 LAN 環境、e-learning 環境などの優れた IT 環境を提供します。
5. 現代社会のニーズに対応する力を育成するため、最新かつ高度な知識及び技術を学ぶ専門教育科目を配置します。
6. 建築学科の専門教育科目は、1～2 年次の専門基礎教育科目及び専門基盤教育科目、3～4 年次の専門実務教育科目で構成され、すべての学生が建築学の基礎を理解し、かつ協力・協調する姿勢、自ら課題を発見し、問題を解決する能力を身に付けた上で、実践的な課題に取り組む専門教育システムとしています。
7. 修得した知識・技術に基づいて自らが考えて取り組む建築意匠・構造・設備の設計演習や、建築士学科試験を題材とした建築学の系統的・総合的な学修を通じて、実践的能力と自律的学習能力を育成します。
8. 教育目的達成度調査結果、学生調査などに基づくポートフォリオ面談を行い、学生個々の学習成果とコンピテンシーについて長期的なルーブリックを用いた形成的評価を行います。
9. 1 年次から 4 年次までに修得した知識・技能・態度の到達度と獲得したコンピテンシーについて単位取得状況、GPA、卒業研究により総括的評価を行います。

北海道科学大学アセスメント・ポリシー

－ 3つのポリシーと学修成果の評価に関する方針－

本学ではディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、アドミッション・ポリシー (AP) の3つのポリシーに基づく教育の実施と不断の改善・改革を教育の内部質保証の中核ととらえます。本ポリシーは、この3つのポリシーそのものの妥当性と、これに基づく教育の実施にあたっての学修成果及び教育成果（大学、プログラム、授業科目、学生の達成度）の評価の方針を定めたものです。これらの結果をそれぞれの対象にフィードバックするとともに、全学的に集約して教育の改善を組織的に継続して行います。

■教育理念・人材養成の目的と DP の整合性

教育目的達成度調査、学生調査、外部試験などの結果と下記の学科、授業科目、学生に関する評価結果を全学的に集約し、大学全体での学修状況を評価します。また、学生の進路（就職率、国家資格取得率等）や卒業生、企業アンケート、産業界からの意見聴取などから、各学科の DP が社会における顕在・潜在ニーズを踏まえているかとともに、学修成果の水準設定の妥当性などを確認します。

■DP-CP の整合性と学修成果の評価基準

・学科（教育課程）を対象とする評価

単位取得状況・GPA・進級状況、および学科の定める資格の取得状況などで、学年ごとの学修状況を評価します。また、毎年行う教育目的達成度調査、および1・3年次に行う大学 IR コンソーシアム学生調査、汎用的技能・志向性を測定する外部試験などを集計した結果から、教育課程全体を通じた学修成果・教育成果の達成状況を評価します。さらに、学科の所定の科目の単位取得状況と卒業研究により、教育課程の体系性と専攻分野における知識・技能・態度の達成度とコンピテンシーを総括的に評価します。

・授業科目を対象とする評価

成績分布、授業改善アンケート、および教育目的達成度調査などの結果とカリキュラムマップ詳細版などを用いて、個々の科目の目標の達成度合、達成目標と DP との整合性、授業の内容・方法（能動的学修の充実や質的転換の観点）、成績評価手段などに関する評価を行います。

・学生を対象とする評価

教育目的達成度調査結果、学生調査結果などに基づくポートフォリオ個別面談を行い、

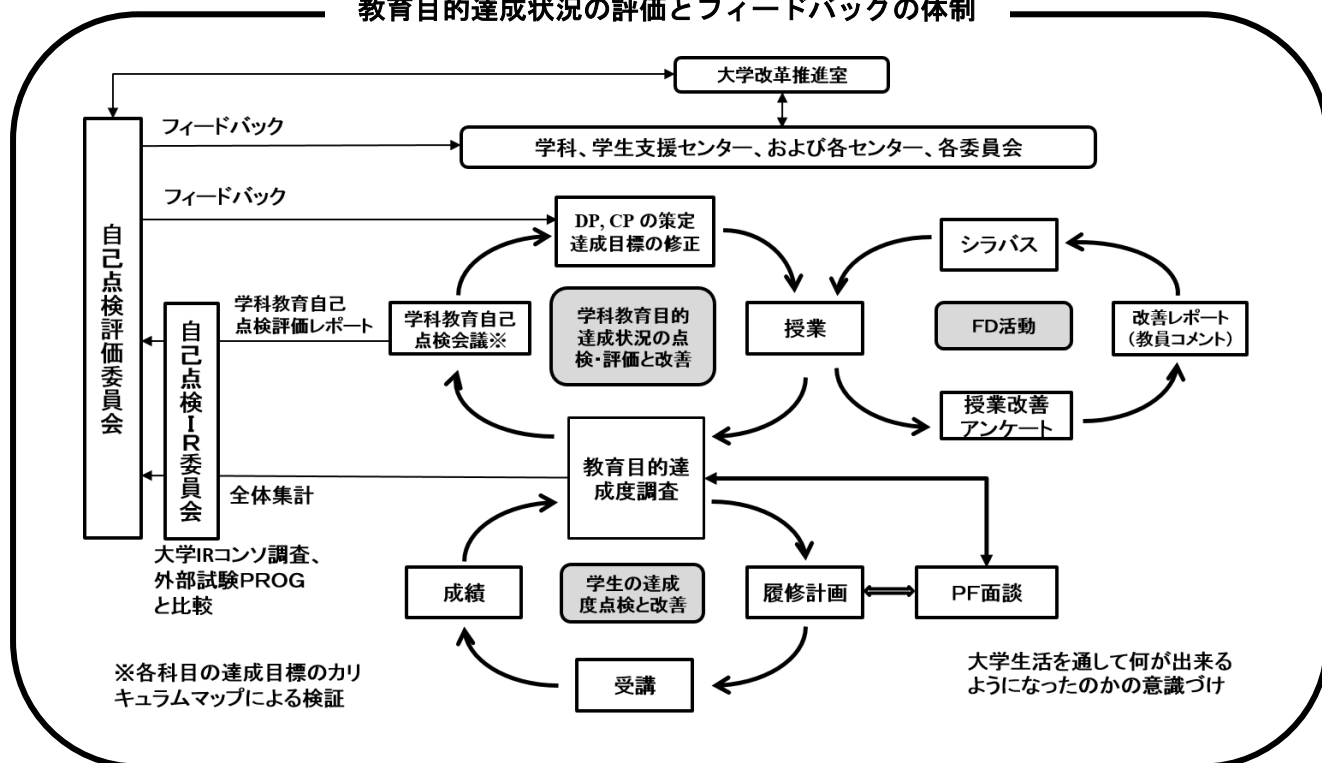
個々の学修成果とコンピテンシーに関する長期的ルーブリックにより、その時点でどの程度教育目標を達成できているかの形成的評価を行います。

学生個々の単位取得状況、GPA、卒業研究などにより、専攻分野における知識・技能・態度の達成度とコンピテンシーを総括的に評価します。

■DP、CPに基づく教育とAPの整合性

入学生に求められる学習成果（学力の3要素）について、入学試験結果、新入生学力調査結果、および1年前期に実施される汎用的技能・志向性に関する外部試験結果によって測定を行います。この結果に基づいて、各学科のAPおよび入学者選抜方法の妥当性について評価します。

教育目的達成状況の評価とフィードバックの体制



学科教育自己点検会議における主要な検討事項

学生個々の学修の進捗とともに、

- ①プログラム全体の中で個々の授業科目が学生の能力育成のどの部分を担うかについて教職員の認識が十分か
- ②他の授業科目等と連携・関連し合いながら組織的に教育を展開できているか
- ③学修成果・教育成果をプログラム共通の考え方や尺度で評価し、その結果をプログラムの改善・改革につなげるというPDCAサイクルが回る構造になっているかについて、検証を行います。

建築学科 アドミッションポリシー

① 基本方針

建築物は、人々が安全で快適に生活することができる空間を提供するとともに、その地域の文化、歴史、自然等を踏まえた高いデザイン性を有している必要があります。

建築学科では、建築計画・意匠・環境・設備・構造・材料に関する建築物の総合的な知識を基盤として、建築・都市空間をデザインする能力を有する建築設計者、健康で快適な空間を創造するための建築設計者・技術者、構造安全性と耐久性を創造するための建築設計者・技術者、ならびに、現代社会や地域の要請に応じた高品質の建築物を提供するための建築技術者を養成するための教育・研究を行います。

そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像		知識	思考力	主体性
		技能	判断力	多様性
		表現力	協働性	
社会的諸問題と建築や人間生活の関わりについて関心を持ち知的好奇心旺盛な人	→	△	○	◎
コミュニケーション能力やチームの一員としての自覚を有している人	→	△	○	◎
創意工夫に富む発想を有し、豊かな建築空間を創造したい人	→	○	◎	△
建築学を学ぶための基礎学力を有し、建築士を志す人	→	◎	○	△
	→			

③ 学力の3要素と求める学習成果

学力の3要素

知識・技能	→	学力試験	調査書	発表	推薦書	集団面接
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	調査書	発表	レポート	個人面接
主体性・多様性・協働性	→	推薦書	集団面接	自己推薦書	集団討論	

④ 求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	調査書	発表	レポート	推薦書	集団面接	個人面接	自己推薦書	集団討論
新ガリレオ入試	→	△		◎		○	△	△	◎
公募推薦入試	→	△	○		○	◎		○	
一般入試	→	◎							
自己推薦入試	→	△	○				○	◎	
大学入試センター試験利用入試	→	◎							
外国人留学生入試	→	○					◎		

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

- ・現代社会が抱える諸問題を解決するため、幅広い分野の基礎知識を習得していること。
- ・高等学校等において、明確な目的意識を持って主体的に学ぶ姿勢を経験していること。
- ・建築学を中心とする学士課程教育を学ぶための必要な基礎学力(国語、外国語、数学、理科、地理歴史、公民)を有するとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、基礎的な事象においては、論理的に考察し、処理する能力を有していること。

※記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。